

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ABAを使用し個別的な療育から集団での行動を通して勉強などに取り組む姿勢を作ることが出来る。	スタッフが個々に寄り添った目標を立てて個別療育を行い、落ち着いた空間で進めている。	勉強や集団行動が苦手なお子様でも楽しく取り組めるよう個々の特性を活かしステップアップできるプログラムを考え取り組んでいく。
2	季節に合わせた豊富なイベントの開催。療育に繋がる活動の取り組みを行う。	毎日、違う活動内容の提供で飽きず楽しんでもらえるよう取り組んでいます。また季節に合ったイベントも定期的に開催しています。	子ども達が夢中になって取り組めたり、スモールステップで成長できるよう多くの達成感を感じてもらい、為に更なるイベントの充実を図っていく。
3	放課後等デイサービス、児童発達支援が同グループで店舗数が豊富で就労継続支援事業所や生活介護、グループホームなど生涯のトータルサポートができる。	自事業所だけでなくお子様や保護者様の希望に合わせた療育や環境で他事業所の利用、体験ができる。また卒業後の進路や自立に向けての支援をトータルでサポート体制。	一人ひとりの個性、保護者様の困りごと、ニーズのお声に寄り添いお応えできるよう、現在から将来まで安心できる場所、働く・過ごす場になるよう支援に力をいれる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業効率を考え、得手不得手を考慮し、作業をすすめていきます。	デジタルに不慣れなスタッフの負担、もっと子ども達との関わる時間が欲しい、優先したいという思い。	業務分担の見直し、デジタル導入前に丁寧なレクチャーを行い慣れるまで紙媒体の併用。記録も大切な支援の一つとして意味づけや評価を共有しスタッフの育成をする。
2	危険物は鍵付き書庫で保管し、使用後は必ず元の位置へ戻す。しかし、送迎などで一時的に整理が不十分になる場面があるため、終礼前田 悠菜に環境点検の時間を設ける仕組みを導入する。	危険につながるもの等は子どもの視界、手に触れないよう管理は行っているが、子どものイレギュラーな動きに焦ってしまう事がある。	安全確保を第一優先で、配置のレイアウトを行い活動がしやすい、切り替えやすいようにすることで危険リスクを軽減し見通しを持ちやすい配置で安心感に繋げる。
3	集団活動を中心に取り組んでいるが、個別の目標達成状況との運動が十分とは言えない。今後は個別支援計画と日々の活動を照らし支援の一貫性を高める必要がある。	様々な活動や取り組みをしているが、もっと個々に合った良い療育や支援が可能ではないか。活動一つにしても別の視点から見えてくるものがあるかもしれない。	個々の意見に寄り添った内容を取り入れる。